

足利市移住・定住相談センター Aidaccoがオープン!

企画政策課・☎202275
同センター・☎223434

休業日

毎週水曜日、年末年始
(12月29日～1月3日)

本市への移住希望者に丁寧な対応とタイムリーな情報を提供するため、JR足利駅構内に同センターを開設しました。

市を挙げて支援体制を整え、定住人口の増加と同駅周辺の賑わいの創出に取り組みます。

名称

足利市移住・定住相談センター

愛称

Aidacco(あいだっこ)

開所時間

午前10時～午後6時

▲考案した愛称とロゴデザインが見事採用された足利工業高校産業デザイン科3年の赤坂京香さん



主な機能

① 移住・定住相談窓口

移住者支援

② 地域おこし協力隊員の活動拠点

③ まちのPR、観光・イベント情報などの発信

④ 結婚活動支援センター(関係機関との協議が整い次第開始)

⑤ 休憩スペース(フリーWi-Fi完備)

スタッフ

嘱託職員1人

地域おこし協力隊員3人

↓

「Aidacco」に込めた思い

足利は、都会と田舎の『あいだっこ』にある住みやすいまち。

同センターは、相談者と地域の『あいだっこ』で本市の魅力発信し、みんなが笑顔になれるようにがんばります!

『あいだっこ』に入ってがんばります!
地域おこし協力隊

木村 沙和さん

映像関連イベントの企画・運営を通して、映像のまちとしての足利の魅力や、市内外問わずより多くの方へ認知していただけるよう活動していきます。

後藤 芳枝さん

舞台衣装製作など、これまで得た知識や経験を活かして、足利ならではの素材を新たな切り口で広め、盛り上げていきたいです。

秋山 佳奈子さん

美術大学での助手の仕事や、大田原市の協力隊でアートを活用した地域づくりに携わった経験を活かして、足利を盛り上げていければと思っています。



—市民の皆さんの活躍をご紹介します—

ちよと いい話。😊

南小4年生が全国大会で優勝!

3月30日(土)・31日(日)に千葉県で開かれた全国小学生ソフトテニス大会に南小の福地奈津美さんが女子4年生以下ダブルスの部で出場。各都道府県代表の170ペアが競い合う中、見事優勝しました。

福地さんは伊勢崎市のチームから同市在住の選手と出場し決勝へ。相手は昨年の関東大会決勝で負けたペアでした。互いの手の内を知る中での試合でしたが、リベンジを果たしました。

今後は「栃木県で開かれる夏の全国大会で良い結果を残したい」と早くも次のステージを見据えていました。



▲笑顔で市長に優勝報告

お知らせ

空き家の解体費と改修費を補助

建築指導課・☎22266

▼特定空家等解体費補助金
補助金額 工事費の2分の1
(上限50万円)

補助対象 市が認定した特定空家など

※職員の現地調査、外部有識者による協議などが必要です。

※単なる老朽空き家は非対象。
申請者 空き家の所有者など

対象工事 市内業者が請け負う解体工事

※一部を解体する工事は非対象

▼空き家バンク改修費補助金

補助金額 工事費の2分の1
(上限50万円)

補助対象 空き家バンクで購入した空き家

申請者 本市への移住者

対象工事 市内業者が請け負う居住部分の安全性・機能性の維持、向上のための20万円(税込)以上の改修工事

※詳細は同課にご相談ください。
※予算上限に達し次第受付終了。

▼空き家バンク申込受付中!
空き家の売却や賃貸をお考えの方、中古住宅や土地をお探しの方、気軽に相談ください。

人権の相談は人権擁護委員へ

～6月1日は『人権擁護委員の日』～

人権・男女共同参画課・☎708600

人権擁護委員は法務大臣から委嘱された民間の方たちで、人権相談や人権侵害被害者救済の支援、各種啓発活動などを行っています。

あ	べ	みえ	こ	か	もち	さよ	こ
阿	部	美恵子	子	加	持	小夜子	子
わか	井	こずえ	み	くり	はら	と	み
若	井	こずえ	こ	栗	原	と	み
との	お	けん	じ	お	むら	ふみ	こ
殿	か	健	治	岡	村	文	子
お	か	とも	こ	い	づ	みや	こ
大	わ	友	子	飯	塚	か	み
い	づ	た	く	ふる	か	つ	美
飯	塚	美佐夫	お	古	川	お	さ
う	葉	みさ	お	く	口	さ	む
薄	瀬	子	子	く	口	り	理
た	せ	ま	こ	ち	く	ち	
高	瀬	子	子	山	口	口	

(6月1日現在)

※毎週火・水・木曜日(祝日を除く)は法務局足利支局内(☎428101・自動音声案内後3番)で人権擁護委員による人権相談を実施しています。



市長コラム No.066



和泉 聡

もうひとつの道

平成から令和への時代の変わり目に、たくさんの方の評論や記事が出ましたが、天皇皇后両陛下が平成の時代につくった歌から、象徴天皇や平成という時代を考証するものが私には印象深く残りました。なかでも朝日新聞4月21日付『日曜に想う』で、福島二編集委員が紹介した美智子さまの歌は、多くの人の心の奥底に届くものでした。

我がとらざりし分去れの

片への道はいづこ行きけむ
戦後50年の平成7年に詠まれたもので、もし皇室に入る道を選ばずもうひとつの道を選んでいたら、自分の人生はどんなふうであったらうか、という美智子さまの気持ちが表現されたものです。

人生の岐路に立つことは私たちにあり「あの時、もうひとつの道を選んでいたら、自分の

人生はどうだったろうか」と思い巡らす。そんな「誰にもある心の動きの、さりげない表現から、ご自身が選んだ道の重責が伝わってくる」と福島委員は書きました。

そう、私がこの歌から強く感じたのは、美智子さまがひとつの道を選んだ瞬間、その内面に築いた『覚悟』です。皇后の務めには、人に言えない困難があつたはず。しかしそれを乗り越える覚悟を持つ。それがひとつの道を選ぶということの意味だと言っているのでしょう。

私も6年前、朝日新聞で記者を続けるという道と、記者を辞めて市長選に出るという岐路に立ち、後者を選びました。そして選んだということは、私にとつても『覚悟を持つ』ことと同義でした。当選は難しいと言われても最後まで戦い抜く覚悟、仮に当選できても待ち受けるであろう、まちづくりの困難に立ち向かうという覚悟。そんなあらゆる覚悟を改めて身に刻み、これからの市長の仕事に臨んでいきたい、そう思ったのでした。

Pick Up!

お知らせ

税

福祉

募集

子育て

健康

働く

講座教室

イベント

施設

相談